プレスリリース

平成 22 年 11 月 29 日

ＡＬＩＣ／ＭＬＡ　牛肉需給情報交換会議の概要について

独立行政法人農畜産業振興機構

このたび、独立行政法人農畜産業振興機構（ＡＬＩＣ）は、豪州食肉家畜生産者事業団（ＭＬＡ）と牛肉需給情報交換会議を開催しました。

本会議は昭和６２年から相互国において、原則として毎年開催しており、今回で通算１９回目となります。

１　日　時：平成 22 年 11 月 19 日（金）　11 時 00 分から

２　場　所：農畜産業振興機構本部　会議室

３　参加者

ＡＬＩＣ　木下理事長、内藤副理事長、塩島理事、鈴木食肉生産流通部長ほか

ＭＬＡ　ドン・ヒートリー会長
ピーター・バーナード国際市場・経済部　統括部長
メラニー・ブロック駐日代表

４　会議内容

木下理事長とドン・ヒートリー会長の挨拶の後、ＡＬＩＣから日本の牛肉需給等について、ＭＬＡから豪州の牛肉需給等について説明した。

＜ＭＬＡからの牛肉需給についての説明概要＞

・ 豪州は過去８年間にわたる干ばつで、降雨量は記録的に少なく、農畜産物の生産にも大きな影響を与えた。しかしながら、天候は 2010 年初頭以降、西オーストラリア州の一部を除いて好転。降雨による出荷頭数の減少から、肉牛価格が堅調に推移する状況となった。
・ 気候の好転により飼養頭数は緩やかに回復の見込みである。特に豪州の北部

（クイーンズランド州、北部準州、西オーストラリア州北部）での飼養頭数の増加を予測している。これに加えて牧草の生育状況の向上、家畜改良や穀物肥育による一頭当たりの枝肉重量の増加と相まって、牛肉生産量は増加すると見込む。なお、その生産量の増加分は輸出に仕向けられるものと見ている。

- フィードロットの収容可能頭数は拡大傾向にある。しかしながら、最近のフィードロットの稼働率は６割前後にとどまっている。今後のグレインフェッドの長期的な生産増加の見通しを踏まえた、先行投資的な拡大と言えよう。
- 世界的な景気後退とは裏腹に、経済が好調な豪州の国内市場については、牛肉の小売価格が堅調にもかかわらず、牛肉の消費量は増加傾向で推移するものと予測。
- 一方、輸出は、豪ドル高から 2010 年１月～10 月の累計では、米国向けは 25%減（166,928 トン）と大幅に減少しており、日本向けも３％減（290,990 トン）となっている。
- 近年、輸出先で伸びてきているのは、中国・東南アジア（香港、台湾、シンガポール、インドネシア及びフィリピン）の国々。2010 年１月～10 月の累計では、中国・東南アジア向けが２％増（96,935 トン）となっている。また、韓国も堅調に推移しており、中東向けも伸びている。従来からの主要輸出先である日本の重要性は今後も変わらぬものの、このような新興市場からの需要は今後も拡大すると見込まれる。

【問い合わせ先】
食肉生産流通部食肉需給課
小田垣、藤野
電話　03-3583-8727